

## コミュニティ・スクール推進事業について

## 1. はじめに

## (1) 本市の現状

- 本格的な人口減少社会の到来と少子高齢化の進行による地域コミュニティの弱体化の懸念  
→ 地域創生に寄与するよう支援を行うことが必要
- 地域における教育基盤の脆弱化  
→ 学校・家庭・地域が、お互いを支え補完し合うことで、子どもが安心して成長できるような場や取組が必要
- 学校が抱える課題が複雑化・困難化  
→ 地域と学校の連携による、社会総掛かりでの教育の実現

## (2) 第2次教育振興基本計画より

「ともに学び、ともに育つ、学びあいのまち まいばら ～自分もひとも大切にし、地域を誇る人づくり～」  
子どもから大人まで誰もが豊かに学び合い、育ち合い、交流するまちを、学校・家庭・地域が手を携えて実現していく

※子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制を構築していくための具体的施策が必要である。

## (3) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

- ・**コミュニティ・スクールとは、法で定める学校運営協議会を設置する学校**を指す。
  - ・学校運営協議会では、学校・家庭・地域の代表者が協議して、子どもにつけたい力や具体的支援などを共有し、子どもを軸にした役割分担による協働体制を整える。
  - ・協議や協働を通じて、「地域の子にこんな子どもに育ててほしい」「子どもたちのために学校を良くしたい」「元気な地域を創りたい」といった「願い」や「志」が集まる学校を目指す。
- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正。学校運営協議会の設置が努力義務化（H29. 4. 1）
- ※本市では、国の動向を見据えつつ、コミュニティ・スクールを上記の目標を具現化するツールの一つと捉え、その導入と充実を進める。

## (4) 全国および他市等の状況

- コミュニティ・スクールの導入状況（H30. 4. 1 現在）
- ・全国 5,432校（うち小3,265、中1,492）← 前年3,600校（うち小2,300、中1,074）  
導入率 14.7%
  - ・滋賀県 103校園（県5、大津7、彦根1、長浜38、近江八幡1、草津20、湖南8、高島19、米原3、竜王1）

## 2. 本年度の取組

## (1) 方針

- ◆ **学校運営協議会を、社会総掛かりで子どもを育てるためのツールとする。**
- ・地域全体で子どもの教育を考える場として、保護者や地域住民が、一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組みを整える。
- ・地域と学校の合議制による学校運営により、子どもにつけたい力、具体的支援・協働内容などを共有した上で、学校、家庭、地域で何ができるか熟議し、役割分担による協働体制を確立する。

## (2) 市教委事務局の動き

- ・（4月）学校運営協議会設置規則に基づき、学校運営協議会委員を委嘱
- ・（4/18）新規に委嘱された委員を対象にした研修会を開催（伊吹山テレビで放送）
- ・（7月）新規コミュニティ・スクール導入希望調査（未導入校対象）
- ・（10～1月）教育フォーラムにて、コミュニティ・スクール周知（各中学校区）
- ・（11月）コミュニティ・スクール導入研修会（講師：県CSアドバイザー）
- ・（翌年1月～3月）次年度取組に係るプレゼン審査会 開催

(3) コミュニティ・スクール導入校の動き → 伊吹山中学校、米原中学校、河南中学校

・ **学校運営協議会を開催（おおむね年6回）**

第1回学運協にて、計画・予算を協議  
議事録作成・提出

・ **協議に基づいた連携・協働活動の実施**

学校教育活動の支援  
協働開催事業の実施

伊吹山中学校・・・北國協往還ふるさとウォーク

米原中学校・・・かまどベンチづくり

河南中学校・・・地域でお花を咲かせてみませんか事業

児童生徒による地域貢献活動

・ **学校評価の実施**

(4) 期待される効果

今年度、モデル校として新規に導入した中学校3校では、次のような効果が出ている。

- ・ 伊吹山中学校では、「北國協往還ふるさとウォーク」が学校運営協議会主催事業として開催された。これは、生徒が地域の方といっしょにふるさとの街道を歩きながら、各所において地域の方から説明を聞いて地域の歴史に関する理解を深めるというものである。当日は、大人も子どもも共に汗をかきながら歩くことで、ふれあいが深まり、子どもを介して学校と地域の関係も深めることができた。
- ・ 米原中学校では、かまどベンチを地域の方々や学校教職員、そして生徒らが協力して製作に当たった。災害時には避難場所となる中学校において、こうした防災関連施設を生徒とともに共同作業で準備する活動は意義があると考えられる。防災意識や連帯意識も高まったことと思う。
- ・ 河南中学校では、「学校は敷居が高い」という声が協議会で出されたことを受け、地域の方が学校へ足を運んでもらう取組として、「地域でお花を咲かせてみませんか事業」を始めた。これは、学校の環境整備の一環としてプランター等に花を植える際に、地域の方々にも来ていただいて、一緒にプランター作りをし、完成したプランターは地域に持ち帰ってもらい、地域で飾っていただくという活動である。春と秋、2回実施された。

このように、地域住民と学校教職員とが地域について学ぶ事業や地域防災の拠点づくりについて取り組むことで一緒に汗を流したり、地域住民が学校に来て活動したことが地域に還元されたりすることを通して、子どもの成長や地域の活性化を目指している。こうした取組を協議する場として、学校運営協議会が機能している。

(5) 導入スケジュール

**平成30年度 中学校3校をモデル校として新規に導入**

**平成31年度 小学校7校、中学校1校を追加**

山東小学校、大原小学校、伊吹小学校、春照小学校、米原小学校、河南小学校、息長小学校  
柏原中学校

※ 河南学区は、小学校と中学校を併せた「河南学区運営協議会」として設置する予定

**平成32年度 小学校2校、中学校2校を追加・・・市内全ての小中学校に設置完了**

柏原小学校、坂田小学校、大東中学校、双葉中学校

### 3. 今後に向けて

◆ 「特色ある学校づくり事業」からコミュニティ・スクール推進事業へ

- ・ これまでの、「特色ある学校づくり事業」は学校を中心とした企画・運営であったが、コミュニティ・スクールにおいては、学校が地域と協働することとなる。学校と地域による協議・協働が充実することにより、地域における教育基盤がより強固となり、本市が抱える課題解消に資することとなると考える。
- ・ これまでの「特色ある学校づくり事業」で培った地域資源活用の在り方を、さらに拡充するために、コミュニティ・スクール推進事業へ移行する。
- ・ 取組内容は、従来通り、校区の実情に応じた各校プレゼンを審査し、委託金額を決定する。

## 伊吹山中学校 「北國脇往還ふるさとウォーク」



- 学校運営協議会主催事業として開催
- 中学生と地域の方々がいっしょに、ふるさとの街道を歩く。
- 道中で、地域の方による説明を聞いて学ぶ。
- 大人も子どもも共に汗をかいて歩くことで、ふれあいを深める。

伊吹地域の皆様へ

伊吹山中コミュニティスクール  
コミュニティ・スクールは、学校運営協議会が主体となり、地域から伊吹山中学校は、学校と地域が連携・協働し、学校と地域で連携を深めていきます。

ふるさと伊吹の古道  
**北国脇往還  
中学生といっしょに  
歩いてみませんか？**

秋の北国脇往還…自然や歴史の話をお聞きながら伊吹山中7年生といっしょに歩いてみませんか？きっと、とても思い出に…

日 時	平成30年10月10日(水) 8:50~12:30(藤川~春間)
予備日	10月11日(木)
講 師	畑中義二さん(京都市立芸術大学) 高橋順之さん(伊吹山文化資料館)
場 所	藤川 8:50集合(本陣特家付近)

※はじめから参加される方で伊吹山中(820)に集合していただく方は、公園東で出発地点藤川までお越しください。準備の都合上、公

## 米原中学校 「かまどベンチづくり」

- 災害時には避難場所となる中学校において活用が期待できる「かまどベンチ」を、地域の方々、中学生、学校教職員が協力して製作する。
- 防災意識、連帯意識の高まり



# 河南中学校

## 「地域でお花を咲かせてみませんか事業」

- 「学校は敷居が高い」という声を受け、地域の方に学校へ足を運んでもらう取組として実施
- 学校の環境整備の際に、地域の方も一緒にプランター作り
- プランターには、「河南中学校運営協議会」のステッカーを貼り、地域で設置してもらうことで周知



# コミュニティ・スクール推進事業

未来を担う子どもたちの豊かな成長や10年後20年後の地域社会の担い手となる心豊かでたくましい米原っ子の育成のために、学校と地域が力を合わせて「地域とともにある学校」づくりを進めるとともに、社会全体で子どもを育てる地域の教育基盤を形成する。



予算額：4,200千円

●地域の子どもたちのことを地域と学校がともに議論し、ともに汗をかくことができる関係

●一方向(学校→地域または地域→学校)から双方向(学校↔地域)の関係

●「学び合い」、「育ち合い」、「支え合い」の教育の実現に向けた信頼関係



●学校・地域による、顔と名前が一致する関係

